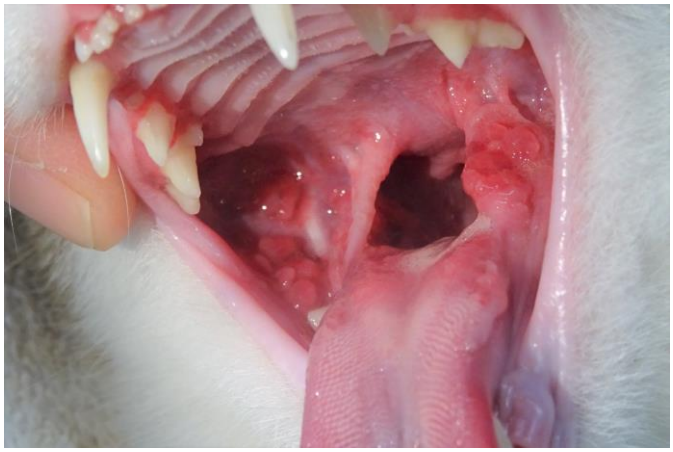
猫の口内炎・舌炎とは

ヒトの口内炎は口腔内の一部分にできることが一般的ですが、猫ちゃんの場合は広い範囲で炎症が起こり、強い痛みを伴います。多くが難治性で、長く苦しめられる疾患の一つです。
直接的に命には関わりませんが、ごはんが食べられなくなり、次第に衰弱してしまいます。

≪原因≫

ハッキリとした原因は分かっていませんが、歯垢や歯石の細菌、ウイルス等に対しての過剰な反応が原因ではないかとされ、以下の関与が疑われています。

- カリシウイルス感染症
- 猫ヘルペスウイルス感染症
- 歯周病
- 猫免疫不全ウイルス感染症（FIV・猫エイズ）
- 猫白血病ウイルス感染症（Felv）
- 糖尿病
- 腎不全　　等



↑口峡部という、口の奥の方に炎症が起きることが多いです。

≪症状≫

- 食欲低下
- 口を掻く仕草（前肢が茶色く汚れることも）
- 流涎
- 口臭
- 食べこぼしが多い　　等

≪治療≫

◆内科治療

細菌感染に対し、抗菌剤を使用します。抗ウイルス薬やインターフェロンが用いられる場合もあります。
炎症に対してステロイドで治療します。
しかしながらいずれのお薬も根本解決にはならず、投薬をやめるとすぐ再発することが多いです。
また、長期的にステロイドを使うことによって、糖尿病をはじめとした副作用のリスクがある事を理解しなければなりません。

◆外科治療

内科治療に対して反応が悪い場合、何度も再発してしまう場合に選択されます。
歯垢・歯石を除去しても症状が緩和されない場合、抜歯が効果的とされており、大まかに2パターンに分けられます。

●全臼歯抜歯…犬歯より奥の歯をすべて抜歯する。
●全抜歯…すべての歯を抜歯する。

歯にはどうしても細菌がついて口内環境を悪化させてしまうため、歯石がつく歯を除去して口内環境を向上させる目的で行います。
歯を抜いてしまうのはかわいそう、歯が無くなったらどうやってごはんを食べるの？などご不安を感じられると思います。
術後、口内炎の痛みから解放され、QOLが向上し食欲・元気が出てくる子が約半数ほどと言われています。
一方、全抜歯をしても症状が改善しないケースが10～20％ほどあり、基礎に猫エイズや猫白血病がある子ではその確率が高くなります。
症状や基礎疾患、年齢などを含めて、慎重な判断が必要です。

オノデラ動物病院
ONODERA ANIMAL HOSPITAL